

日本人学習者における英語の関係詞節構造の理解に関する一考察

大津, 隆広
九州大学言語文化部応用言語学部門

<https://doi.org/10.15017/6796394>

出版情報：言語科学. 35, pp.35-45, 2000-02-29. 九州大学言語文化部言語研究会
バージョン：
権利関係：

日本人学習者における英語の関係詞節構造の理解に関する一考察

大津隆広

1 序

英語における関係詞節構造は、(1)のような「先行詞⇒関係詞節」という情報の配列からなっている。これに対して、日本語の関係詞節構造は(2)のように、「関係詞節⇒先行詞」の順に情報が配列されている。

(1) This is a book [that I have written].

(2) これは [私が書いた] 本です。

このように、英語の関係詞節構造は、日本語のそれとは情報の配列の点で異なるために、英語教育の場では特殊な構造として扱われることが多い。関係詞節構造の意味を日本語で構築する場合、制限的用法では「関係詞節⇒先行詞」、非制限的用法では、英語の配列にしたがって「先行詞⇒関係詞節」の順に行うよう指導されるのが一般的である。また、学習者にも特殊な構造であるという意識が働くものと考えられる。

本論の目的は、日本人学習者が英語の関係詞節構造の意味をどのような手順で構築しているかを、書かれた英語と話された英語の両方において調べることにある。第2章では、実験により、書かれた英語と話された英語における意味構築のパターンを観察する。第3章では、それらの間の相関関係を調べる。

2 関係詞節構造の理解に関する実験

2.1 書かれた英語における理解

(1) 目的

本実験の目的は、書かれた英語において、日本人学習者が関係詞節構造の意味を日本語で構築する際のパターンを調べ、その確立の度合を探ることにある。

(2) 被験者

九州大学一年次の日本人学生24名を対象とした。彼らにおいて、英語の関係詞節の構造とその意味の理解ができていることを個別の面接にてあらかじめ確認した。

(3) 資料

以下の4タイプの関係詞節構造を含んだ英文37例を使用した。

- (3) a. 文中に関係詞節をもつ制限的関係詞節構造
- b. 文末に関係詞節をもつ制限的関係詞節構造

- c. 文中に関係詞節をもつ非制限的關係詞節構造
- d. 文末に関係詞節をもつ非制限的關係詞節構造

英文では、極端に難解な語彙やイディオムを用いることは避けるよう努めた。使用した英文は次のようなものである。(その他の資料についてはAppendixを参照。)

- (4) a. Half of the people who were invited to the party didn't turn up.
- b. She's married to the man over there whose ears are enormous.
- c. Mrs Taylor, whose children we used to play with, passed away.
- d. I went to see my friends the Forrests, whose children I used to look after when they were small.

(4) 方法

被験者に37の英文をランダムに並べた資料を配布し、45分間でその意味を日本語で記入させた。45分という時間は、被験者がすべての例文を処理するのに要する時間としては最適であった。

(5) 結果

表1は4つの関係詞節構造別に被験者全体のデータを合計して、2つの意味構築パターン(「先行詞⇒関係詞節」と「関係詞節⇒先行詞」)の割合を表したものである。書かれた英語の場合の日本人学習者の意味構築のパターンには次のような特徴があることがわかった。

表1 書かれた英語における関係詞節構造の理解¹

関係詞節の用法	位置	意味構築のパターン		
		先行詞⇒関係詞節	関係詞節⇒先行詞	その他
制限的用法	文中	2.5%	94.3%	3.2%
	文末	3.8%	93.5%	2.7%
非制限的用法	文中	62.8%	26.3%	10.9%
	文末	81.4%	17.5%	1.1%

制限的用法の場合、データの総数の9割以上は「関係詞節⇒先行詞」のパターンにより意味の構築が行われている。これに対し、非制限的用法で「先行詞⇒関係詞節」のパターンで意味を構築する割合は意外に低い。特に、文中に置かれた非制限的關係詞節では低く、同義な制限的關係詞節と同様のパターンを用いて意味が構築された例が多かったことを表わしている。

¹ 先行詞と関係詞節の理解の順序を調べるのが目的であるため、語彙の意味が多少違っていても順序が把握できるものはデータとして扱った。したがって、「その他」に属する例は、「先行詞⇒関係詞節」、「関係詞節⇒先行詞」の順序による意味の構築のどちらにも読み取れない解釈であったことを表している。

次に、意味構築の2つのパターンが、被験者においてどの程度支配的であるかを調べ、その確立度を考察してみよう。

まず、制限的関係詞節構造で2つの理解のパターンの差をt検定により分析すると、文中と文末に用いられた場合ともに極めて有意な差が観察された（それぞれ、 $t=19.88$, $df=23$, $p<0.01$, $t=12.15$, $df=23$, $p<0.01$ ）。これらは、被験者が2つのパターンのうちの「関係詞節⇒先行詞」を選択し、それが支配的であったことを意味している。

これに対して、非制限的関係詞節構造の理解のパターンでは逆の結果が観察された。文中、文末で用いられた場合ともに、2つのパターンの選択には有意な差が観察された（それぞれ、 $t=2.29$, $df=23$, $p<0.05$, $t=5.40$, $df=23$, $p<0.01$ ）。被験者には「先行詞⇒関係詞節」の理解のパターンが支配的であった。²

書かれた英語に関する本実験では、文中、文末の使用ともに、制限的関係詞節構造では「関係詞節⇒先行詞」、非制限的関係詞節構造では「先行詞⇒関係詞節」という意味構築のパターンが日本人学習者において強く確立していると推察される。

2.2 話された英語における理解

(1) 目的

本実験の目的は、話された英語において、日本人学習者が関係詞節構造の意味を理解する際のパターンを調べ、その確立の度合を探ることにある。

(2) 被験者

九州大学一年次の日本人学生20名を対象に行った。彼らの英語の聴解力は、高等学校および大学の教育以外では特別な訓練を受けてはいないことを把握した。

(3) 資料

英文には、イギリス人の英語母国語話者によりナチュラルスピードよりもやや遅めに録音された以下のような58例を使用した。これらも2.1で述べた4つのタイプの関係詞節構造を含んでいる。平易な英単語を用い、構文もイディオムなどの難解なもの避け、文の長さは均等になるように努めた。（その他の資料についてはAppendixを参照。）

- (5) a. The street which leads to the school is very narrow.
- b. The man had a dog which barked loudly at everybody.
- c. The cook, whose cooking skills were learned in France, is expected to be very good.
- d. Yesterday I attended the meeting, whose members were limited to men.

² 他の3つのタイプの関係詞節構造に比べて、文中における非制限的用法には「その他」に該当するデータが多い。p値が異なることから、このタイプの関係詞節構造の理解が日本人学習者には難しいことを示唆しているのではないと思われる。

(4) 方法

LL教室にて、被験者にヘッドセットから英文を一度聞かせ、配布した資料の中の項目を10秒間でマークさせながら、関係詞節構造の意味が構築されるパターンを調査した。資料には、58例を通して先行詞にあたる語彙と関係詞節内で現われる語彙(例えば、(5)aを聞く場合にはstreetとschool)をランダムに並べた。また、被験者には、意味構築の際に最初に使用した語彙にマークし、さらに文の意味が理解できなかった場合には、それを示すためのマークをするよう指示をした。

被験者が最初にマークする語彙とは、意味を構築する際に最初に理解を試みようとする項目であると考えられるので、この実験により、日本人学習者が英文を聞いた際に、どのような順序で関係詞節構造を理解しているかが調査できると推察される。

(5) 結果

表2は4つの関係詞節構造別に被験者全体のデータを合計して、2つの意味構築パターンの割合を表したものである。話された英語の場合の日本人学習者の意味構築のパターンには次のような特徴があることがわかった。

表2 話された英語における関係詞節構造の理解³

関係詞節の用法	位置	意味構築のパターン		
		先行詞⇒関係詞節	関係詞節⇒先行詞	その他
制限的用法	文中	16.6%	76.1%	7.3%
	文末	37.0%	56.7%	6.3%
非制限的用法	文中	36.4%	54.3%	9.3%
	文末	53.6%	36.8%	9.6%

制限的用法の場合のデータの総数を見ると、書かれた英語の場合ほどではないが、「関係詞節⇒先行詞」パターンによる理解が優勢であり、t検定の結果でも、書かれた英語の場合と同様に、文中、文末の使用ともに有意な差が認められた(それぞれ、 $t=6.91, df=19, p<0.01, t=2.16, df=19, p<0.05$)。したがって、「関係詞節⇒先行詞」のパターンによる意味の構築が被験者においては支配的であることがわかった。

書き言葉に比べて、話し言葉の処理は一方であるので、制限的用法を意図した構造でも、日本人学習者は「先行詞⇒関係詞節」パターンを用いて最初に耳にした項目から意味を構築する頻度が高いと考えられる。したがって、話された英語の理解に行う「関係詞節⇒先行詞」の意味構築の割合は、書かれた英語に比べて、文中では20%程度、文末では40%程度低くなっていると考えられる。

³ 「その他」に属する例は、英文を聞いたがその意味を構築することができなかったことを表している。したがって、どちらの理解のパターンに属するかも判断できない。

一方、非制限的用法について検定を行うと、文中、文末のどちらにおいても2つの理解のパターンの間には有意な差が見られないというこれまでの実験とは異なる結果が観察された（それぞれ、 $t=1.57$, $df=19$, $p>0.05$ 、 $t=1.96$, $df=19$, $p>0.05$ ）。これは、データの総数では一方の理解のパターンが優勢であるように見えるが、被験者に特定の理解のパターンが共有されているとは考えにくいことを示唆している。一方、データの総数からみて、文中の非制限的関係詞節構造を理解する場合に「関係詞節⇒先行詞」のパターンが多く用いられているという点は興味深い。この実験での被験者の理解のパターンは、英語教育の場で指導されたものとは明らかに異なっている。

本実験では、音声に基づいた理解の場合でも、書かれた英語のそれと同様に、制限的用法では、「関係詞節⇒先行詞」による意味構築のパターンが日本人学習者には支配的であり、ある程度確立していることがわかった。一方、非制限的関係詞節構造を理解しようとする場合、日本人学習者の意味構築のパターンには少なくとも2通りあることがわかる。つまり、どちらの理解のパターンも確立してはいないと言える。

2.3 考察

日本人学習者は、英語教育の場で、制限的用法は「関係詞節⇒先行詞」、非制限的用法は「先行詞⇒関係詞節」という順序で関係詞節構造の意味を理解するようかなり丁寧に指導されている。また、インプットされたそうした理解のパターンは、書かれた英語の理解においてより強く実現されるという実験結果は予想するに難くない。しかし、本実験はいくつかの考察すべき点を提起している。

2.1、2.2の実験により、書かれた英語による制限的用法と非制限的用法では、それぞれ「関係詞節⇒先行詞」、「先行詞⇒関係詞節」、話された英語による制限的用法では「関係詞節⇒先行詞」という意味構築のパターンが確立されていると推察された。それでは、なぜ話された英語による非制限的関係詞節構造のみが日本人学習者に特定の理解のパターンを共有することを許さないのであろうか。これは、英語の関係詞節構造を理解する際に日本語で意味を置き換えることに原因があると考えられる。

日本語の関係詞節構造は、英語のように制限的用法と非制限的用法を区別する明確な形式をもってはいないと言われる（斎藤他 1995, p236）。例えば、(6)の中の日本語の関係詞節が制限的用法であるとは断言することはできない。

(6) a. シカゴに住んでいる私の姉

b. 彼女にとっても力を貸してくれた先生

(6)aは、関係詞節が先行詞の特性を限定することにより「私の姉」により指示される人物がどの姉なのかを同定する制限的用法の解釈の他に、聞き手にはすでに同定されている「私の姉」についてさらに情報を加える非制限的用法の解釈がある。このように、日本語の構造が英語の制限的関係詞節とパラレルに見えるからといって、関係詞

節が先行詞の指示対象を限定しているとは限らないのは(6)bについても同様である。一方、こうした日本語の関係詞節構造の特徴は、英語の非制限的關係詞節構造とパラレルな日本語の表現が明確な形では存在しないことを示唆している。例えば、非制限的用法が意図された(7)のような英語による情報の配列を考えてみよう。

(7) a. my sister, who lives in Chicago

b. her teacher, who had been very helpful to her

英語教育の場では、(7)aは「私の姉は、シカゴに住んでいるのだが、その姉は...」、(7)bは「彼女の先生は、彼女にとっても力を貸してくれたが、その先生は...」のような日本語に解釈するよう指導される。しかし、こうした日本語はやはり明確な表現形式であるとは言えない。したがって、これらを用いて英語の非制限的關係詞節構造の意味を構築することに労力がかかるとすれば、(6)のような日本語表現が用いられると考えることは自然である。以上のような理由で、話された英語による非制限的關係詞節構造では、指導とは異なる「関係詞節⇒先行詞」のパターンで意味を構築する日本人学習者が多いことが説明される。⁴

第二に、上述した同じ理由が考えられるのに、話された英語における文末の非制限的關係詞節構造の意味構築の場合には、なぜ「先行詞⇒関係詞節」のパターンの割合が優勢なのであろうか。非制限的用法の関係詞節では、日本語で意味を構築するために「関係詞節⇒先行詞」というパターンを用いる日本人学習者は意外と多い。したがって、文末の非制限的關係詞節構造がこのパターンをとらずにすむのは、労力のかからない他の処理がなされているからである。(8)をみてみよう。

(8) a. I gave the message to your secretary, who was supposed to pass it on to you.

b. Mary thanked her teacher, who had been very helpful to her.

(8)を理解するのに「関係詞節⇒先行詞」という意味構築のパターンが必要だとすると、記憶の点からも逆に労力を増やすことになる。最適な意味構築パターンとは、(8)aではI gave the message to your secretary, because she was supposed to pass it on to you. (8) bではMary thanked her teacher, because he had been helpful to her.のようなものであり、「先行詞⇒関係詞節」のパターンが優勢なことは理解できる。⁵

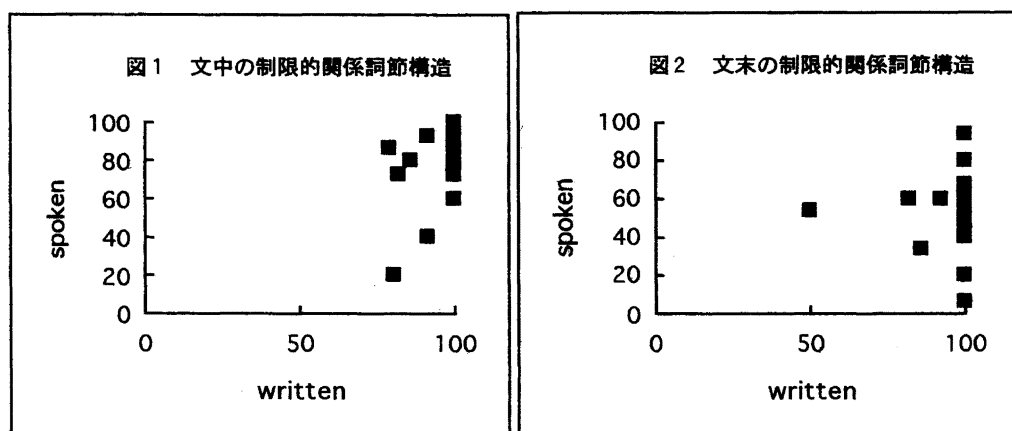
⁴ 先行詞と関係詞節の間には、書かれた英語ではコンマ、話された英語では下降調および上昇調のイントネーションと顕著なポーズが現われる。録音した英文ではその特徴をかなり丁寧に表わしたつもりではあるが、話された英語での非制限的用法が的確に理解されない理由には、当然そうした音声上の特徴を日本人学習者が認知できないということも考えられる。また、書かれた英語の解釈は短い時間でなされなくてはならないとしても、試行錯誤を繰り返しながら、指導された理解のパターンにしたがって意味を構築することが比較的可能であると考えられる。

⁵ 談話において関係詞節の内容が話者の主たる断言部分として機能すればするほど、「関係詞節⇒先行詞」による意味の構築には労力を要するようになると考えられる。

3 書かれた英語と話された英語における関係詞節構造の意味構築パターンの相関

第2章では、日本人学習者における関係詞節構造の意味構築のパターンを調べるために、書かれた英語と話された英語について考察した。本章では、19名の日本人学習者を被験者とするデータを用いて、書かれた英語と話された英語における意味構築パターンの相関を調べる。⁶ ある意味構築のパターンについて両者の間に強い相関関係があると判断されれば、両者における関係詞節構造の意味構築に同じパターンが用いられていると考えることができる。

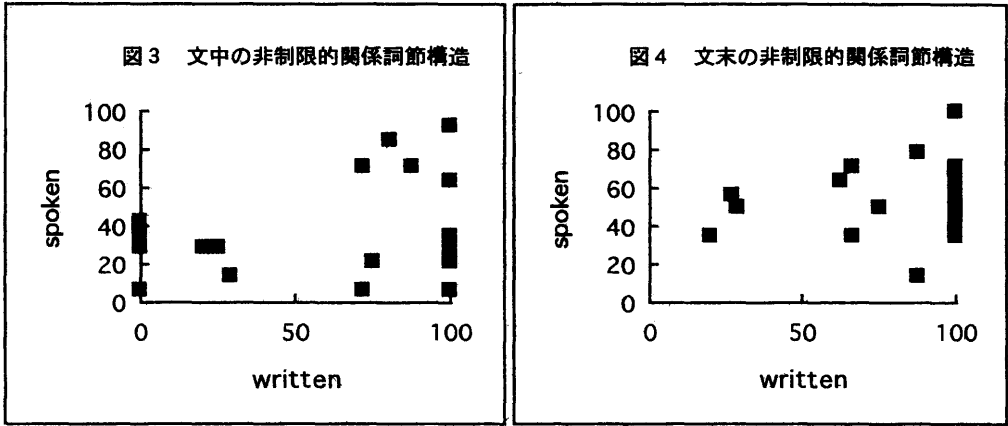
図1、2は、書かれた英語と話された英語における「関係節⇒先行詞」による意味構築パターンの割合の相関を、文中と文末の制限的關係詞節構造について表した散布図である。⁷ 文中、文末ともに、日本人学習者は書かれた英語の場合に用いた意味構築パターンを、話された英語の場合も用いるとは限らないことがわかった（それぞれ、 $r=0.36, df=17, p>0.05$ 、 $r=0.09, df=17, p>0.05$ ）。英語を読む場合と聞く場合では、関係詞節構造の意味を構築するパターンには一貫性がないことを表している。



一方、図3、4は「先行詞⇒関係詞節」による意味構築のパターンの相関を文中と文末の非制限的關係詞節構造について表した散布図である。文中、文末ともに、英語を読む場合と聴く場合で、意味構築のパターンの一致が見られないことが示唆されている（それぞれ、 $r=0.33, df=17, p>0.05$ 、 $r=0.17, df=17, p>0.05$ ）。

⁶ 2.1と2.2の実験の共通の被験者が19名であった理由による。

⁷ 横軸は書かれた英語における意味構築パターンの割合、縦軸は話された英語における意味構築パターンの割合を表す。割合は、2つの意味構築のパターンの合計を100とした値である。表1、2の「その他」に属するデータは除外している。



以上の結果から、書かれた英語と話された英語における関係詞節構造の意味構築パターンには、相関関係は認められないと言える。

4 結語

第2章で明らかなように、書かれた英語の場合、文中、文末のどちらに使用されても、制限的用法では「関係詞節⇒先行詞」、非制限的用法では「先行詞⇒関係詞節」という意味構築のパターンが日本人学習者には確立している。一方、話された英語の場合には、制限的用法では「関係詞節⇒先行詞」という特定の意味構築のパターンが確立されているものの、非制限的用法における意味構築には共有されたパターンが観察されなかった。また、文中で用いられた非制限的關係詞節の理解に関して、書かれた英語の場合には誤訳が多く、話された英語の場合には指導とは逆の意味構築のパターンの使用が優勢であることから、日本人学習者には関係詞節構造の中でも特別に理解が難しい構造ではないかと推察される。

さらに、第3章では、書かれた英語と話された英語における意味構築のパターンの相関を調べたが、どのタイプの関係詞節構造においても顕著な相関が見られなかった。日本人学習者にとって、英語で関係詞節構造を読む場合と聞く場合に、同じパターンを用いて意味を理解することは難しいようである。できるだけ意味構築のパターンを一致させることが英語の関係詞節の構造と意味そのものの理解を高めることであり、それを可能にする教授方法を探ることが次の課題である。

参考文献

- 荒木一雄（編）1984. 『英文法用例辞典』 研究社
- Bache, Carl and Leif K. Jackobsen. 1980. On the distinction between restrictive and non-restrictive relative clauses in modern English. *Lingua* 52. 243-267.
- Bernardo, Robert. 1979. The Function and content of relative clauses in spontaneous oral narratives. *BLS* 5. 539-551.
- Loetscher, Andreas. 1973. On the role of nonrestrictive relative clauses in discourse. *CLS* 9. 356-368.
- Lucas, Michael A. 1974. The surface structure of relative clauses. *Linguistics* 139. 83-120
- 水口志乃扶 1980. 非制限的關係詞節の機能について 『英語学』 23. 68-83.
- 長原幸雄 1990. 『関係節』 大修館書店
- 大津隆広 1989. 談話における非制限的關係詞節の機能 『英語学の視点』 九州大学出版会
- Phillips, Brian. 1977. Discourse structure and non-restrictive relative clauses. *LAUCUS* 3. 368-375.
- 斎藤武生他（編）1995. 『英文法への誘い』 開拓社

Appendix

実験 1 資料

- 1-1 Every girl that came to see the popular singer was a teenager.
- 1-2 The garage which I keep my car in is just around the corner.
- 1-3 Half of the people who were invited to the party didn't turn up.
- 1-4 The only thing that keeps me awake is coffee.
- 1-5 The book whose name I've forgotten was borrowed by Mary.
- 1-6 The meeting whose purpose we don't understand should be put off.
- 1-7 All the paintings that he collected are now on sale.
- 1-8 Any paper that you read will give you the same story.
- 1-9 The woman whom I marry will have a good sense of humor.
- 1-10 The girl whose beauty has taken my breath away before is watching me now.
- 2-1 Paintings by Renoir realized record prices in the sale which took place at Sotheby's in London yesterday.
- 2-2 These off-Broadway theaters produce much of the experimental drama that would be too risky to try out on Broadway.
- 2-3 A peaceful world cannot be built on a basis of populations that enjoy fighting and killing.
- 2-4 What's the name of the tall man who just came in?
- 2-5 Chicago is a city whose attractions are many.
- 2-6 He looked for a car whose engine was running.
- 2-7 I've got some friends whose house looks over a river.
- 2-8 You know that girl whose brother drives lorries?
- 2-9 She's married to the man over there whose ears are enormous.

- 3-1 In these theaters the audience, which is often seated arena style, may view plays that represent the new movements in dramas.
- 3-2 Some London policemen, who are well known for their politeness and helpfulness, were sent to America on a goodwill visit.
- 3-3 My sister, who lives in Chicago, has three children.
- 3-4 Ms Rogers, who is joining the firm next week, is calling us.
- 3-5 Mrs Taylor, whose children we used to play with, passed away.
- 3-6 Michel Croz, whose help Whymper climbed the Matterhorn with, was one of the first professional guides.
- 3-7 The teddy-bear, whose eyes are missing, is thrown away into the river.
- 3-8 Foreign visitors find that English weather, which they often associate with fog and rain and which sometimes makes them dread coming to England, is not so bad as they had supposed.
- 3-9 Except for his uncle, whom he lived with for ten years, he had no intimate friends.
- 4-1 I sent the letter to Tom, who passed it on to Fred.
- 4-2 This is Mr. Rogers, who is joining the firm next week.
- 4-3 In 1908 Ford developed his Model T car, which sold for \$500.
- 4-4 I saw a house among the trees, whose roof shone in the sun.
- 4-5 I went to see my friends the Forrests, whose children I used to look after when they were small.
- 4-6 This is Mr. Cash, whom you have heard much about.
- 4-7 In that year he met Rachel, whom he was later to marry.
- 4-8 She went to work with my brother, whom she later married.
- 4-9 I poured him a glass of wine, which he drank at once.

実験 2 資料

- 1-1 The student who finishes the exam first does not always get the best grade.
- 1-2 The street which leads to the school is very narrow.
- 1-3 The man who can help us is Mr. Johnson.
- 1-4 The people who live next door are having all-night parties.
- 1-5 People who take physical exercise live longer.
- 1-6 The book whose cover is torn is mine.
- 1-7 A woman whose husband is dead is called a widow.
- 1-8 Those students whose names have been called may begin their exams.
- 1-9 The investigation whose results will soon be published was made by two scientists.
- 1-10 The book whose content we are going to discuss is on the desk.
- 1-11 The car that the President was riding in was continually being stopped by the crowds.
- 1-12 The man I was waiting for didn't turn up.
- 1-13 These photographs that you have been looking at were taken by my sister.
- 1-14 The glass that you are drinking out of hasn't been washed.
- 1-15 The bed which I sleep in is comfortable.
- 2-1 Old age is a problem that should concern us all.
- 2-2 That is the very question that has long been in my mind.

- 2-3 The man had a dog which barked loudly at everybody.
- 2-4 Thousands of houses were destroyed by the fire that followed the earthquake.
- 2-5 New York is a place which attracts young people especially.
- 2-6 Basketball is the only sport whose exact origin can safely be stated.
- 2-7 That's the man whose daughter John is going to marry.
- 2-8 That's the company whose employees are paid the most.
- 2-9 Have you ever seen an animal whose fur changes color?
- 2-10 This is a proverb whose meaning I cannot understand.
- 2-11 Yesterday I met Mr. Thomas whom I had not seen for several years.
- 2-12 I can assure you that David is a man whom you can trust absolutely.
- 2-13 Man has some gifts which no animals have.
- 2-14 Golf and tennis are sports you can enjoy until you are old.
- 2-15 On my way downtown I came across an old friend I had not seen for years.
- 3-1 Dr. White, who has too great expectations for his son, may be disappointed.
- 3-2 John, who knows the way, has offered to guide us.
- 3-3 The lark, which builds its nest on the ground, has a sweet voice.
- 3-4 My brother, who has lived in America for 30 years, can still speak French.
- 3-5 Dorothy, who does my hair, has moved to another hairdresser's.
- 3-6 My son, whose major was mathematics, is a high-school teacher.
- 3-7 Shakespeare, whose plays are world-famous, lived some four hundred years ago.
- 3-8 The cook, whose cooking skills were learned in France, is expected to be very good.
- 3-9 Some London policemen, whose politeness is well known, were sent to America.
- 3-10 The TV program, whose content you might like, was changed.
- 3-11 The man, whom I was waiting for, had lost his way.
- 3-12 Dorothy, whom the police were looking for, was found to be dead.
- 3-13 The cook, whom I have lost touch with for years, is going to open a new restaurant next week.
- 3-14 My pen pal, whom I have been writing to for two years, are coming to Japan next month.
- 4-1 There were very few passengers, who escaped without serious injury.
- 4-2 Yesterday I met your brother, who told me your mother was ill.
- 4-3 I gave the message to your secretary, who was supposed to pass it on to you.
- 4-4 He was not of the Ned Winter family, who were very respectable people in Ohio.
- 4-5 Mary thanked her teacher, who had been very helpful to her.
- 4-6 I passed through a town, whose streets were paved with stone.
- 4-7 Yesterday I met John, whose mother was seriously ill.
- 4-8 He lost his son, whose innocence he could not forget forever.
- 4-9 Yesterday I attended the meeting, whose members were limited to men.
- 4-10 Did you read Mary's report, which I left on your desk?
- 4-11 I sent a love letter to Mary, whom my brother knew very well.
- 4-12 He wrote her a long letter, which he didn't mail.
- 4-13 She is going to marry Dick, whom she does not love.
- 4-14 She married a very nice young architect, whom she met on a bus.

